

2023 年 9 月 18 日 (月)  
於 高麗大学校

## 平安期初頭の仏者の文①——『日本靈異記』の作文方法

河野貴美子 (早稲田大学文学学術院)

### 一、『日本靈異記』説話の構成

『日本靈異記』… 薬師寺沙門景戒撰。日本現存最古の仏教説話集(九世紀初成立)。三卷。  
上・中・下巻それぞれに序あり。合計116の説話を収める。「日本国」に起こった「現報」譚、  
「善悪」の因果応報譚、「靈異」譚を「記」す。

#### 【資料1】『日本靈異記』上巻序文

原夫内經外書、伝於日本、而興始代、凡有二時。皆自百済国将来之。輕嶋豐明宮御宇  
田天皇代、外書来之。磯城嶋金刺宮御宇欽明天皇代、内典来也。然乃学外之者、誹於仏  
法、誦内之者、輕於外典。愚癡之類、懷於迷執、匪信於罪福、深智之儔、觀於内外、信恐  
因果。…… 匪呈善惡之状、何以直於曲執、而定是非、匡示因果之報、何由改於惡心、而  
修善道乎。昔漢地造冥報記、大唐国作般若驗記。何唯慎乎他国伝録、弗信恐乎自土奇  
事。…… 故聊注側聞、号曰日本国現報善惡靈異記、作上中下参卷、以流季葉。然景戒、  
稟性不儒、濁意難澄。坎井之識、久迷太方。能巧所雕、淺工加刀。…… 祈覽奇記者、却  
邪入正。諸惡莫作、諸善奉行。(新編日本古典文学全集)

#### 【資料2】『日本靈異記』上巻第19「訛誦法花經品之人而現口喎斜得惡報縁」

〔A-1〕昔山背国、有一自度。姓名未詳也。常作碁為宗。〔B-1〕沙弥与白衣俱作碁。時乞者  
来誦法花經品而乞物。沙弥聞之、輕咲眄、故〔イ+戾〕己口、訛音効誦。白衣聞之、碁条恐  
曰、「畏恐矣」。白衣者、作碁每遍而勝、沙弥者、每遍猶負。於是即坐、沙弥口喎斜、令藥  
治療、而終不直。〔C〕法花經云、「若有輕咲之者、当世牙齒疎欠、醜唇平鼻、手脚繚戾、眼  
目角眊」者、其斯謂之矣。〔D-1〕寧託惡鬼、雖多濫言、而与持經者、不可誹謗、能護口業  
矣。

※〔A-1〕場、人／〔B-1〕「事件(例証話)」の内容／〔C〕内典の引用／〔D-1〕語り手・編者の評語

#### 【資料3】『日本靈異記』上巻第6「〔イ+鼻〕憑念觀音菩薩得現報縁」

〔A-2〕老師行善者、俗姓堅部氏。小治田宮御宇天皇之代、〔B-2〕遣学高麗、遭其国破、流  
離而行。忽其河辺、椅壞無船、過渡无由。居断橋上、心念觀音。即時老翁、乘舟迎速、同  
載共渡。渡竟之後、從舟下道、老公不見、其舟忽失。乃疑觀音之応化也。便發誓願、造像  
恭敬。遂至大唐、即造其像、日夜帰敬。号曰河辺。法師之性、忍辱過人、唐皇所重。從日  
本国使、以養老二年、帰向本朝。住興福寺、供養其像、至卒不息。〔D-2〕誠知、觀音威力、  
難思議矣。〔E〕讃曰、老師遠学、遭難將帰。无由済渡、憶聖坐椅。心憑威力、化翁来資。別  
後過翳、凶儀常礼、其役不輟。

※〔A-2〕人、時／〔B-2〕「事件(例証話)」の内容／〔D-2〕語り手・編者の評語／〔E〕讃(贊)

## 二、『妙法蓮華經』の字句の反映

### 【資料 4】『日本靈異記』現存写本

- ・興福寺本 ... 延喜四年(904)写本の模本。上巻のみの零本。
- ・真福寺本 ... 鎌倉期写。中・下巻のみの零本。
- ・前田家本 ... 嘉禎二年(1236)写。下巻のみの零本。
- ・国立国会図書館本 ... 三昧院本(建保二年(1214)奥書)の模本。抄出本。
- ・来迎院本 ... 平安後期写。中・下巻の一部のみの零本。訓釈は本文中に注記。

### 【資料 5】『日本靈異記』中巻第 17「観音銅像反化驚形示奇表縁」

大倭国平群郡鵜村岡本尼寺、観音銅像十二体 ..... 聖武天皇世、彼銅像六体、盗人所取、尋求无得、經数日月 ..... 彼辺有牧牛童男等、見之池中、有聊木頭、頭上居鷺 ..... 垂將捕之、即入於水、見所居木、有金之指、取牽上見、観音銅像 ..... 告知諸人、諸人轉聞、告知寺尼、尼等聞来。見実其像也。塗金禿落、尼衆衛繞彼像、而悲哭云 .....

〔国立国会図書館本訓釈〕禿: 音大伊 阿波計

※『妙法蓮華經』譬喻品「泥塗禿落」(大正藏第 9 卷 13 頁 c)

### 【資料 6】『日本靈異記』下巻第 26「強非理以徵債取多倍而現得惡死報縁」

田中真人広虫女者 ..... 天年無道心、慳貪無給与。酒加水多、沽取多直。貸日与小升、償日受大升。出挙時用小斤、償収大斤。息利強徵、太甚非理。或十倍徵、或百倍徵。債人涉取、不為甘心。多人方愁、棄家逃亡、跼蹐他国、無逾此甚。 .....

〔前田家本訓釈〕跼蹐: 佐須良不留者也

※玄応『一切經音義』卷六妙法蓮華經・信解品音義「伶俚: ..... 經文多作跼蹐。 ..... 」(古辞書音義集成)

※甘博 075『妙法蓮華經』信解品(敦煌出土写本)「於某城中、捨吾逃走、跼蹐辛苦、五十余年。」

## 三、外典の字句の反映

### 【資料 7】『日本靈異記』上巻第 8「聾者帰敬方広經典得報聞両耳縁」

少墾田宮御宇天皇之代、有衣縫伴造義通者。忽得重病、両耳並聾、惡瘡遍身。歴年不愈。自謂「宿業所招。非但現報。長生為人所厭、不如行善遄死」。 .....

\*『毛詩』鄘風・相鼠「人而無礼、胡不遄死」(十三經注疏本)

\*唐道宣『集古今仏道論衡』「人之無良、胡不遄死。」(大正藏第 52 卷 392 頁 a)

\*『史記』商君列伝、唐湛然『止観輔行伝弘決』等にも引用

\*源為憲『世俗諺文』上巻 117 (寛弘四年(1007))序)

人而無礼、胡不遄死

毛詩云、相鼠有体、人而無礼。人而無礼、胡不遄死。注云、遄、速。(観智院本)

\*源為憲『三宝絵』中五「衣縫伴造義通」(永観二年(984)成立)

..... コハニミヅカラオモハク、「是ハ昔ノムクヒニヨリテ所招病也。コノ事ニハアラジ」ト思テ、「ナガイキシテ人ニクマレムヨリハ、シカジ、功德ヲツクリテハヤクシナムニハ」ト思テ .....

(新日本古典文学大系、底本は東京国立博物館蔵東寺観智院旧蔵本)

※関戸家蔵本「みつからおもはく、これむかしのつみのまねくところなり。このよの事にはあらずと、なかく

いきて人にゝくまれむよりはしかしくとくをつくりてとくしなむにはと思て……」

※前田家蔵本「自思、是昔罪之所招也。非此世所為。自長生被厭人者不如行功德早死……」

＊『今昔物語集』卷 14 第 36「伴義通、令誦方広經開聲語」(12 世紀前半成立)

…… 義通思ハク、「此レ報ニハ非ジ。宿業ノ招ク所ナラム。今生ニ亦善業ヲ不修ズハ、後世ノ報亦如此ナラム。然レバ、不如ジ、善根ヲ修シテ後世ヲ祈ラムト思テ……」 (新日本古典文学大系)

#### 【資料 8】『日本靈異記』中卷第 3「惡逆子愛妻將殺母謀現報被惡死緣」

吉志火麻呂者、武蔵国多麻郡鴨里人也。火麻呂之母者、日下部真〔刀+自〕也。聖武天皇御世、火麻呂、大伴筑紫前守所点、応經三年。母随子往、而相節養。其婦者、留国守家。時火麻呂、離己妻去、不昇妻愛、而發逆謀、思殺我母、遭其喪服、免役而還、与妻俱居。母之自性、行善為心。子語母言、「東方山中、七日奉說法花經有大会。率母聞之」。母所欺、念將聞經發心、洗湯淨身、俱至山中。子以牛目眦母而言、「汝地長跪」。母瞻子面答之曰、「何故然言。若汝託鬼耶」。子拔橫刀、將殺母。母即子前長跪而言、「殖木之志、為得彼果並隱其影、養子之志、為得子力并被子養。如恃樹漏雨、何吾子違思、今在異心耶」。子遂不聽。時母佗僚、著身脱衣、置於三处、子前長跪、遺言而言、「為我詠裏。以一衣者、我兄男汝得之也。一衣者、贈我中男呪也。一衣者、贈我弟男呪也」。逆子步前、將殺母項之、裂地而陷。母即起前、抱陷子髮、仰天哭願、「吾子者、託物為事。非實現心。願免罪呪」。猶取髮留子、子終陷也。慈母持髮歸家、為子備法事、其髮入筥、置仏像前、謹請諷誦矣。母慈深、深故、於惡逆子、垂哀愍心、為其修善。誠知、不孝罪報甚近。惡逆之罪、非無彼報矣。

＊『楚辭』離騷

侘鬱邑余佗僚兮、吾獨窮困乎此時也。

〔王逸注〕佗僚、失志貌。

(『楚辭章句』芸文印書館)

＊慧立『大唐大慈恩寺三藏法師傳』卷一「未嘗不執卷躊躇捧經佗僚」

(大正藏第 50 卷 225 頁c)

＊空海『大日經略解題』「佗僚尋五百由旬之宝处」

(大正藏第 58 卷 4 頁c)

＊『今昔物語集』卷 20 第 33「吉志火麿、擬殺母得現報語」

…… 火丸此レヲ聞ト云ヘ共不許シテ、猶殺サント為ル時ニ、母ノ云ク、「汝ヱ暫ク待。我レ云ヒ可置キ事有」ト云テ、着タル衣ヲ脱テ、三所ニ置テ、火丸ニ云ク、……「一ノ衣ヲバ我ガ中男也汝ガ弟ニ与ヨ……」…… 母此レヲ見、火丸ガ髮ヲ捕テ、天ニ仰テ泣々ク云ク、「…… 願ハ天道、此ノ罪ヲ免シ給ヘ」……

＊『大般涅槃經』光明遍照高貴德王菩薩品

若望報施、是名為施非波羅蜜。施不望報、是則名為檀波羅蜜。若為恐怖・名聞・利養・家法相續・天上五欲、為憍慢故、為勝他故、為知識故、為來報故、如市易法。善男子、如人種樹、為得蔭涼、為得花果及以材木。若人修行如是等施是名為施非波羅蜜。

(大正藏第 12 卷 493 頁a)

#### 【資料 9】『日本靈異記』下卷第 14「拍于憶持千手咒者以現得惡死報緣」

越前国加賀郡、有浮浪人之長。探浮浪人、驅使雜徭、徵乞調庸。于時有京戸小野朝臣庭麿。為優婆塞、常誦持千手之咒為業。展轉彼加賀郡部内之山而修行。神護景雲三年歲次己酉春三月廿七日午時、其長有其郡部内御馬河里。遇行者曰、「汝何国人」。答、「我修行者、非俗人也」。長瞋嘖言、「汝浮浪人。何不輸調」。縛打驅徭。猶拒逆之、懇引譬言、「衣虱上於頭而成黒、頭虱下於衣而成白。如有譬。頂載陀羅尼負經之意、不遭俗難。何故持大乘之我令打辱。實有驗德、今示威力」。以繩繫千手經、從地引之

而去。……

＊『文選』嵇康「養生論」

虱処頭而黑、麝食柏而香。頸処陰而癭、齒居晋而黃。

〔李善注〕『抱朴子』曰、今頭虱著身、皆稍變而白、身虱処頭、皆漸化而黑。則是玄素果無定質、移易存乎所漸。」（胡克家本）

＊空海『三教指帰』上卷「遂与頭虱以陶性、将晋齒而染心。」

（定本弘法大師全集第 7 卷）

＊『三宝絵』卷中 8

…… コノ時ニ修行者云ク、「キヌノシラミハ頭ニノボレバ黒クナル。頭ノ蟻モ衣ニクダレバ白クナリヌ。虫モスミカニシタガヒテ其色ヲアラハセバ、法モツ所ニシタガヒテソノカタチヲアラハスベキ物也 ……」

（新日本古典文学大系）

※関戸家蔵本「ときに行者のいはく、きぬのしらみもかしらにのほれはくろくなる。かしらのしらみもきぬにくたれはしろくなる。むしもすむところにゝてそのいろをあらはせは、法文たもつ所にしたかひてそのちからをあらはすへきものなり。」

※前田家蔵本「于時行者云、衣虱登頭黒、頭虱下衣白。衣虫随住所顯其色、法随所持可顯其力者也。」

【資料 10】

＊『世俗諺文』序

夫言語者、自交俗諺者多出經籍。雖釈典儒書為街談巷説、然而必不知本所出矣。

＊『童子教』（鎌倉中期～末期成立？）

為誘引幼童、注因果道理。出内典外典、見者勿誹謗、聞者不生笑。（新日本古典文学大系）

四、『日本靈異記』の作文

【資料 11-①】『日本靈異記』上巻序文

然景戒、稟性不儒、濁意難澄。坎井之識、久迷大方。能巧所雕、浅工加力。……

【資料 11-②】『日本靈異記』中巻序文

…… 然景戒、稟性不聡、談口不利。神渥鈍、同於[金+葛]刀、連居字不華、情慙贗、同於刻船、編造文乱句。不勝貪善之至、拙黷淨紙、謬注口伝。……

＊『冥報記』序文

昔晋高士謝敷、宋尚書令傅亮、太子中書舍人張演、齊司徒事中郎陸果、或一時令望、或当代名家。並録觀世音応驗記、及齊竟陵王蕭子良、作宣驗記、王琰作真祥記。皆所以徵明善惡、勸戒将来、實使聞者深心感寤。臨、既慕其風旨、亦思勸人、輒録所聞、集為此記。仍具陳所受及聞見。由縁言、不飾文。

（大正蔵第 51 卷 788 頁 a）

【資料 12】『日本靈異記』上巻第 25「忠臣小欲知足諸天見感得現報示奇事縁」

〈A〉故中納言從三位大神高市万侶卿者、大后天皇時忠臣也。有記云、朱鳥七年壬辰二月、詔諸司、当三月三日、将幸行伊勢、宜知此意而設備焉。時中納言、恐妨農務、上表立諫。天皇不從、猶将幸行。於是脱其蟬冠、擎上朝庭、亦重諫之、「方今農節、不可行也」。  
〈B〉或遭旱災時、使塞己田口、水施百姓田。田施水既窮、諸天感応、龍神降雨、唯澍卿田、不落余地。堯雲更靄、舜雨還霈。〈C〉諒是忠臣之至、仁義之大。〈D〉賛曰、「修々神

氏、幼年好学。忠而有仁、潔以無濁。臨民流惠、施水塞田。甘雨時降、美譽長伝。

＊『日本書紀』卷三十・持統天皇六年

二月丁酉朔丁未、詔諸官曰、当以三月三日、将幸伊勢。

乙卯……是日中納言直大貳三輪朝臣高市麻呂、上表敢直言、諫争天皇、欲幸伊勢、妨於農時。

三月丙寅朔戊辰……中納言大三輪朝臣高市麻呂、脱其冠位、擎上於朝、重諫曰、「農作之節、車駕未可以動」。

(新編日本古典文学全集)

※『万葉集』卷一 44 歌左注、『懷風藻』藤原万里「過神納言墟」詩なども参照。

＊唐・法琳『弁正論』卷四

開四等之日、遍燭堯雲。揚六度之風、橫流舜雨。

(大正藏第 52 卷 512 頁a)

＊『大乘理趣六波羅蜜多經釈文』(平安初期成立?『大乘理趣六波羅蜜多經』(貞元四年(788)般若訳)の音義書)

霪:『書中』、普蓋反。大雨也。雨多下貌也。大雨不正盛降曰霪也。流溢也。

(神田喜一郎『優鉢羅室叢書 大乘理趣六波羅蜜多經釈文』)

＊『続日本紀』卷三十二・光仁天皇宝龜四年十二月乙未条

勅、增益福田、憑釈教之弘濟、光隆国祚、資大悲之神功。……順此時令、思施霪沢。可赦天下。

(新日本古典文学大系)

＊空海『遍照發揮性靈集』卷一「遊山慕仙詩」

飛雲幾生滅、霪々空飛揚。

(定本弘法大師全集第八卷)

＊空海『遍照發揮性靈集』卷二「沙門勝道歷山水瑩玄珠碑并序」

……去大同二年、国有陽九。州司令法師祈雨。師則上補陀洛山祈禱。応時甘雨露霪、百穀豐登。所有仏業、不能縷説。……

★〈D〉賛「修々神氏、幼年好学。忠而有仁、潔以無濁。臨民流惠、施水塞田。甘雨時降、美譽長伝」

→「学」「濁」(入声覚韻)、「田」「伝」(下平声先韻)

→『文選』曹植「与楊徳祖書」「吾雖徳薄、位為蕃侯、猶庶幾勦力上国、流惠下民」(同文は『三国志』魏書・陳思王植伝にもあり)。「李善注」「四子講徳論曰、質敏以流惠」。

→『爾雅』釈天「甘雨時降、万物以嘉、謂之醴泉、祥」。(十三經注疏本)

→唐・法琳『弁正論』九箴篇・教為治本五

「善龍有力、風雨順時。四氣和暢、甘雨時降。百穀稔豐、人民安楽」(大正藏第 52 卷 532 頁b)

＊『今昔物語集』卷 20 第 41「高市中納言依正直感神語」

今昔、持統天皇ト申ス女帝ノ御代ニ、中納言大神ノ高市麿ト云フ人有ケリ。……或ル時ニハ天下旱魃セルニ、此ノ高市麿、我ガ田ノロヲ塞テ水不入シテ、百姓ノ田ニ水ヲ令入ム。水ヲ人ニ施ルニ依テ、既ニ我ガ田焼ヌ。此様ニ我ガ身ヲ棄テ民ヲ哀ブ心有リ。此レニ依テ、天神感ヲ垂レ、竜神雨ヲ降ヌ。但シ、高市麿田ノミニ雨降テ、余ノ人田ニハ不降ズ。此レ偏ニ、実ノ心ヲ至セレバ、天此レヲ感テ、守加フル故也。

然レバ、人ハ心直カルベシ。永ク横様ノ心ノ不可仕ズ。大和ノ国、城上ノ郡ニ三輪ト云郷、其ノ中納言ノ栖也。其ノ家ヲバ寺ト成テ三輪寺ト云フ。其ノ流ヲ以テ其ノ社ノ司トシテ、今ニ有トナム語リ伝ヘタリトヤ。

## 五、『日本靈異記』が目指したもの——「智」と「行」を備えた「聖」

### 【資料 13】『日本靈異記』中卷第 7「智者誹妬變化聖人而現至閻羅闕受地獄苦緣」

釈智光者……天年聰明、智惠第一。製孟蘭盆大般若心般若等經疏、為諸學生、誦傳仙教。時有沙弥行基……捨俗離欲、弘法化迷。器宇聰敏、自然生知。內密菩薩儀、外現聲聞形。聖武天皇、感於威德、重信之。時人欽貴美稱菩薩。……於是智光法師、發嫉妬之心、而非之曰、「吾是智人。行基是沙弥。何故天皇、不齒吾智、唯譽沙弥而用焉。」……見之前路有金樓閣。問、「是何宮」。答曰、「於葦原國名聞智者、何故不知。當知、行基菩薩將來生之宮」。……往前。極熱鐵柱立之。使曰、「抱柱」。光就抱柱。……又指北將往。倍勝於先熱銅柱立。……即就抱之。身皆爛銷。……又指北而往。甚熱火氣……問、「是何處」。答、「為師煎熬阿鼻地獄」。……今者忽還……光發露懺悔曰、「……是以慙愧發露。當願免罪」。行基大德、和顏嘿然。……從此已來、智光法師信行基菩薩、明知聖人。然菩薩、感機盡緣、以天平廿一年己丑春二月二日丁酉時、法儀捨生馬山、慈神遷彼金宮也。智光大德、弘法傳教、化迷趣正、以白壁天皇世、智囊蛻日本地、奇神遷不知堺矣。

### 【資料 14】『日本靈異記』上卷第 4「聖德皇太子示異表緣」

聖德皇太子者、磐余池辺双觀宮御宇橘豐日天皇之子也。小墾田宮御宇天皇代、立之為皇太子。太子有三名。一号曰厩戸豐聰耳。二号曰聖德。三号曰上宮也。向厩戸產。故曰厩戸。天年生知、十人一時訟白之然一言不漏能聞之別。故曰豐聰耳。進止威儀、似僧而行、加製勝鬘法花等經疏、弘法利物、定考績功勳之階。故曰聖德。從天皇宮住上。故曰上宮皇也。……

### 【資料 15】『日本靈異記』下卷第 39「智行並具禪師重得人身生國皇之子緣」

【A】尺善珠禪師者、俗姓跡連也。負母之姓而為跡氏也。幼時隨母、居住大和國山辺郡磯城嶋村。得度精勤修學、智行雙有。皇臣見敬、道俗所貴。弘法導人、以為行業。是以天皇、貴其行德、拜任僧正之。而彼禪師之願右方、有大願也。平城宮治天下山部天皇御世延曆十七年之比頃、禪師善珠、臨命終時、依世俗法、問飯占時、神靈託卜者言、「我必宿於日本國王之夫人丹治比孃女之胎、將生王子、吾面願著生。以知虛實耳」。命終之後、延曆十八年之比頃、丹治比夫人誕生一王子。其願右方願著如先。善珠禪師之面願不失而著生。故名号大德親王。然經三年許、存世而薨。向問飯占時、大德親王之靈、託卜者言、「我是善珠法師也。暫間生國王之子耳。為吾燒香供養」者矣。是故當知、善珠大德、重得人身、生人王之子矣。內教言、「人家々」者、其斯謂矣。是亦奇異事矣。

【B】又伊予國神野郡鄉內有山。名号石鎚山。是即彼山有石鎚神之名也。其山高峻而、凡夫不得登到。但淨行人耳、登到而居住。昔諾樂宮廿五年治天下勝寶心真聖武太上天皇之御世、又同宮九年治天下帝姬阿倍天皇御世、彼山有淨行禪師而修行。其名為寂仙菩薩。其時世人道俗、貴彼淨行故、美稱菩薩。帝姬天皇御世於九年寶字二年歲次戊戌年、寂仙禪師、臨命終日、而留錄文、授弟子告之而言、「自我命終以後、歷廿八年之間、生於國王之子、名為神野。是以當知、我寂仙云々」。然歷廿八年、而平安宮治天下山部天皇御世延曆五年歲次丙寅年、則生於山部天皇皇子、其名為神野親王。今平安宮疏十四季治天下賀美能天皇是也。是以定知、此聖君也。又何以知聖君耶。世俗云、「國皇法、人殺罪人者、

必随法殺。而是天皇者、出弘仁年号伝世、応殺之人成流罪活彼命、以人治也。是以旺知聖君也」。或人誹謗、「非聖君。何以故。此天皇時、天下旱厲有。又天災地妖飢饉雖繁多有。又養鷹犬、取鳥猪鹿。是非慈悲心」。是儀非然。食国内物、皆国皇之物。指針許末、私物都無也。国皇随自在之儀也。雖百姓敢謗之耶。又聖君堯舜之世、猶在旱厲。故不可誹之也。

※賀美能天皇＝嵯峨天皇

## 参考文献

- ・中田祝夫校注・訳『新編日本古典文学全集 10 日本靈異記』、小学館、1995。
- ・出雲路修校注『新日本古典文学大系 30 日本靈異記』、岩波書店、1996。
- ・遠藤嘉基・春日と男校注『日本古典文学大系 70 日本靈異記』、岩波書店、1967。
- ・興福寺本『日本国現報善惡靈異記上卷』便利堂影印、1934。
- ・小泉道『校注真福寺本日本靈異記』訓点語と訓点資料別巻第二、訓点語学会、1962.6。
- ・財団法人前田育徳会尊經閣文庫編『尊經閣善本影印集成 40 日本靈異記』、八木書店、2007。
- ・『複製日本古典文学館 日本靈異記 来迎院本』、財団法人日本古典文学会監修・編集、ほるぷ出版、1977。
- ・古辞書叢刊行会編『原装影印版古辞書叢刊別巻 法華經单字』雄松堂書店、1973。
- ・浅野敏彦「日本靈異記の漢字と言葉——法華經・一切經音義との比較を通して——」坂本信幸他編『論集 古代の歌と説話』和泉書院、1990。
- ・吉田金彦・宮澤俊雅『古辞書音義集成第四巻 妙法蓮華經积文』汲古書院、1979。
- ・小林芳規(解題)『古辞書音義集成第七～九巻 一切經音義』(上)(中)(下)、汲古書院、1980～1981。
- ・沼本克明・池田證壽・原卓志『古辞書音義集成第十九巻 一切經音義索引』汲古書院、1984。
- ・方広錫・[英]呉芳思主編、上海師範大学・英国国家図書館合編『英国国家図書館蔵 敦煌遺書』⑦、広西師範大学出版社、2011。
- ・上海古籍出版社・法国国家図書館編『法蔵敦煌西域文献』⑦、⑬、上海古籍出版社、1998、2001。
- ・段文傑主編『甘肅蔵敦煌文献』第五巻、甘肅人民出版社、1999。
- ・于淑健『敦煌仏典語詞和俗字研究——以敦煌古佚和疑偽經為中心』上海古籍出版社、2012。
- ・觀智院本『世俗諺文』古典保存会複製、1931。
- ・馬淵和夫・小泉弘他校注『新日本古典文学大系 31 三宝絵 注好選』岩波書店、1997。
- ・小泉弘・高橋伸幸『諸本対照 三宝絵集成』笠間書院、1980。
- ・池上洵一校注『新日本古典文学大系 35 今昔物語集三』岩波書店、1993。
- ・小峯和明校注『新日本古典文学大系 36 今昔物語集四』岩波書店、1994。
- ・東京大学国語研究室編『東京大学国語研究室資料叢書 今昔物語集』汲古書院、1985。
- ・『楚辞章句』芸文印書館、1974。
- ・中村宗彦『古代説話の解釈 風土記・靈異記を中心に』明治書院、1985。
- ・正宗敦夫『類聚名義抄』全二巻、風間書房、1968。
- ・山田俊雄等校注『新日本古典文学大系 52 庭訓往来 句双紙』岩波書店、1996。
- ・河野貴美子「上代の女性の結婚と仏教——『日本靈異記』を通してみる」仁平道明編『アジア遊学 157 東アジアの結婚と女性—文学・歴史・宗教』、勉誠出版、2012。

- ・河野貴美子「『日本霊異記』を生みだした「語」学と「文」学」『文学・語学』205、2013。
- ・河野貴美子「古代日本の仏教説話と内典・外典 ——『日本霊異記』を中心に」新川登亀男編『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』、勉誠出版、2015。
- ・河野貴美子「日本文学史における『日本霊異記』の意義——その表現と存在——」『上代文学』116、上代文学会、2016。
- ・河野貴美子「『日本霊異記』における『法華経』語句の利用」浅田徹編『アジア遊学 202 日本化する法華経』勉誠出版、2016。
- ・河野貴美子「日本霊異記の典拠」瀬間正之編『〈古代文学と隣接諸学 10〉「記紀」の可能性』、竹林舎、2018。
- ・河野貴美子「『日本霊異記』における聖徳太子」阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』勉誠出版、2018。
- ・河野貴美子「『日本霊異記』の用字と表現」河野貴美子・高松寿夫編『日本文学研究ジャーナル 特集 奈良・平安の漢詩文』14、2020。
- ・河野貴美子「『日本霊異記』の表現と内部連関からみるその主張」鉄野昌弘・奥村和美編『萬葉集研究』41、塙書房、2022。